



秋山 恭亮
(改革みしま)



経済的な理由による教育格差の是正

Q 三島市が行っている困窮世帯の通塾支援事業の拡大として、さまざまな教育活動に対する補助事業の取り組みへの考えを伺う。

A 令和5年度中に把握・分析される子どもの生活実態調査で、困窮家庭の学習や習い事に関する実態を踏まえ、支援の必要性や次期計画への反映を考え、より良い手法や財源確保を研究し、貧困の連鎖防止に引き続き注力していく。



将来における空き家対策の共創方針

Q 三島市では官民連携の強化として共創方針を掲げている。共創による空き家対策として、将来、どのような取り組みがあるか。

A 令和5年度に実施する移住定住促進業務委託により得られる成果を展開させ、協力事業者を増やしていくとともに、民間事業者との共創により空き家の所有者や利活用者が相談できる体制を構築する。また、地域性に応じた空き家の利活用を促進させ、活力ある三島を目指していく。



佐野 淳祥
(緑水会)



市役所建て替えにおける立体駐車場整備

Q 50億円をかける立体駐車場を建設するにあたって、詳細な現状の実証データもなく発表し、議論することは正しいやり方なのか。

A 今でも多くの自治体が参考とする昭和の論文を引用しているが、現状、市における業務の増加に加え、自動車での来庁者も増えていることを考慮し、DX技術の進展や人口減少なども加味して、駐車場の必要台数を設定した。

駐車場240台の計算式数値の根拠

Q 滞留時間20分、窓口利用0.9%としているが、DXが導入される前の数値と思われる。計算利用したこの数値はいつの時代のものか。

A 現状の分散している施設の利用状況を考慮した上で、ピーク時の利用台数等を割り出すことは非常に困難であり、仮に詳細なデータを集積する場合、各駐車場に長い月日をかけ、多くの人員を配置し分単位で状況を把握する必要があり、調査に要する費用も膨大となる。



他の質問事項

「#不登校は不幸じゃない」について



土屋 利絵
(改革みしま)



ひきこもりの当事者・ご家族への支援

Q 生活支援センターで相談や家庭訪問にも対応できる、ひきこもり支援を専門とするスタッフの配置の可能性について伺う。

A 生活支援センターでは、住居や就労、家計など生活全般にわたる相談に対し、個々の状況に応じた支援をしている。ひきこもり相談スタッフの配置にあたっては、厚生労働省の補助メニューを活用することにより、相談体制の強化を目指して検討を進めていく。



三島駅南口東街区再開発事業

Q 三島駅南口東街区再開発事業のタワー棟4階部分に、順天堂病院の高度医療が入る可能性があるとの報道があったが、進捗状況を伺う。

A タワー棟4階の医療機能について具体的に説明できる段階ではないが、1フロアを一括で利用する形態に変更されており、事業関係者の協議は継続的に行われている。引き続き、三島市医師会との意思疎通を図りつつ導入機能の検討を進めていく。